

製品名: C1QB (12D10) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07721**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:100
分子量	27kDa

抗原情報

遺伝子名	C1QB
別名	C1qb; Complement component 1 q subcomponent B chain;
遺伝子 ID	713.0
SwissProt ID	P02746
免疫原	ヒト C1QB の合成ペプチド

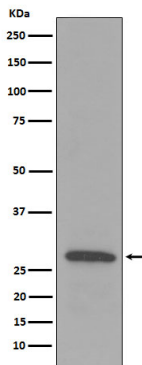
背景

C1qはプロ酵素 C1r および C1s と会合して、血清補体系の第一成分である C1 を生成する。C1q のコラーゲン様領域は Ca²⁺依存性 C1r2C1s2 プロ酵素複合体と相互作用し、C1q の球状頭部が免疫複合体中に存在する IgG または IgM 抗体の Fc 領域と相互作用することで、C1 が効率的に活性化される。C1q はプロ酵素 C1r および C1s と会合して、血清補体系の第一成分である C1 を生成する。C1q のコラーゲン様領域は Ca(2+)依存性 C1r(2)C1s(2)プロ酵素複合体と相互作用し、C1q の球状頭部が免疫複合体中に存在する IgG または IgM 抗体の Fc 領域と相互作用することで、C1 が効率的に活性化される。

研究分野

神経科学、神経学プロセス、神経変性疾患、アルツハイマー病、免疫学、自然免疫、補体、古典的経路

画像データ



ヒト血漿溶解物中の C1QB 発現のウェスタン プロット分析。